

# 先行型事業にかかる検証シート

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.1

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→	戦略への成果	成果の状況				
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	度会町総合戦略等策定支援事業		政策調整室	<p>本事業は、平成26年11月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく「度会町まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「度会町人口ビジョン」の策定を進めるにあたり、起草作業自体は町が行うものの、必要な調査・分析等を民間コンサルティング企業等へ委託し、課題解決のための早期策定への支援を内容とします。</p> <p>また、策定にあたっては、国や県の総合戦略を勘案しつつ、時を同じくして策定する「第6次度会町総合計画後期基本計画」との整合性を図ることを方針に掲げ、作業を進めました。</p>						
KPI	※KPI設定不要のため記載なし			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
事業の効果	—	—	→	—	—	—	—	—	—	
総合評価	進捗状況	4月末の委託契約締結後、6月には庁内体制を整え、中高生アンケート調査、産官学金労言など幅広い分野からの有識者の方々で構成する度会町総合計画審議会（兼総合戦略推進外部委員会）からの答申、パブリックコメントの実施及び町議会との調整等を経て、当初の工程計画に基づく10月末日の完成に至りました。							○	
	発揮効果	本交付金の活用（業務補助）により、作業効率が高まり策定作業の円滑化が図れ、県内でも早期の策定自治体となりました。このことにより、課題解決に向けた速やかな取組が可能となったほか、地方創生交付金（上乗せ交付分・タイプⅡ）の対象要件を満たしたことで、関係事業の採択及び実施へと繋がりました。								
今後展開	総合戦略の推進にあたっては、個々の事務レベルでの確なPDCAサイクルによる進行管理が求められています。本町においては、庁内組織による内部検証作業に加え、効果検証の客観性の担保を目的に外部有識者による総合戦略推進外部委員会の「検証部会」を新たに設置し、相互に評価と検証を行い、途切れのない施策推進の改善に繋げることで、より一層の効果を発揮させることとしています。									
検証	外部検証	【事業全般に対する評価】								
		<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。</li> </ul> 【事業の進め方等についての意見】 <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な戦略を早い時期に作ることができたので、今後はこれを着実に推進し、活力ある度会町をつくっていかれたい。</li> </ul>								

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.2

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 /指標値/目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→	戦略への成果		成果の状況			
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
4-1	事業	町営バス有償運送事業		総務課	交通弱者の活動範囲拡大に向け、「度会町地域公共交通会議」の開催など、平成27年4月～7月を準備期間とし、8月より新形態により「度会町営バス」の運行を実施します。					
	KPI	利用者数 /500人/年/H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)
					383人	564人				
4-1	事業の効果	安心して生活できる環境を整備する	週3日運行では、限られた曜日の活動という制限がありました。週5日運行にすることで、買い物、通院などのスケジュールを立てやすくなりました。		→	人口減少に備える		買い物や通院など交通弱者に配慮した、きめ細かな地域交通網を整備し、暮らしやすい町をつくることで、人口減少に備えていきます。		
	総合評価	進捗状況	度会町営バスのダイヤ改正等業者との調整、公共交通会議での審議、広報紙、老人会、民生委員を通じた啓発など、平成27年4～7月を準備期間とし、従来の形態での運行としました。利便性の向上を図り、8月からは週3日から5日、あわせて便数・ダイヤの改正をし、新形態として運行しました。現在にいたり乗客数は増加の傾向にありますが、乗客や未利用者から新たな意見等が聴取されるため、予定通りであったとは言い難いです。						●	
4-1	総合評価	発揮効果	従来の形態で運行した平成27年4～7月の月平均乗車数が20人であったのに対し、新形態で運行した平成27年8月～平成28年1月の月平均乗車数は47人でした。乗客が増えているので交通弱者の移動環境は、多少なりとも充実したものと考えられます。今後の展開により平均乗車65人以上を目指します。							
	今後展開	利便・活用性の高いバスとするため、スーパー等の駐車場にバス停留所を設置及びダイヤ改正など、さらなる地域の自立を図ります。隣接市町と交通網がつながることで、交通弱者の活動範囲が拡充され地域間を行き来し、地域、人との交流の要となり、新たなコミュニティを生み育て、医院、店舗、観光地及びイベント等への集客が期待されます。								
4-1	検証	外部検証	【事業全般に対する評価】 ・概ね適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。 ・進捗状況について、目標は達成しているので○の評価で良いと思われる。 【事業の進め方等についての意見】 ・近隣市町との連携も含めて、更なる利便性の改善に努められたい。							

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.3

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→ 戦略への成果		成果の状況				
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	宮リバー度会パーク魅力アップ事業		産業振興課	町の玄関口に位置する宮リバー度会パーク及びバザールわたらいを拠点として町の知名度向上と交流人口の増加や雇用の場の創出を図っていきます。						
	販売所売上高／900万円/年／H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				200万	1500万					
	小規模農家の意欲を向上させた、野菜をはじめとした地産地消の産地づくりおよびふるさと納税返礼品の新たな開拓を進め、行政だよりのアンテナショップからの脱却を図ります。									
販売所雇用者数			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)		
			3	4						
販売所の売り上げが上昇することによって、アンテナショップとしてのみではなく、観光案内所の意味あいを含めた雇用の拡大を目指します。										
21① 事業の効果	人を呼び込む	宮リバー度会パークの遊水プール・鏡を中心とした施設をPRすることによって、来場者が増え収益増となっています。		→	社会減を減らす	宮リバー度会パークの魅力伝えることで、町内での交流人口が増えるとともに新たな活気が生まれ、移住や定住を促進することにつながります。また、消費者が増えることで多くを占める小規模農業者の意欲が増進し、町が活気づくことを目指します。				
	仕事を増やす	宮リバー度会パークの魅力伝えることで、町内での交流人口が増えることにより、新たな店舗の出店等を目指しています。								
総合評価	進捗状況	新たな商品の展開や、地場産品のさらなる発信に向けて、より強く情報を展開していくことが重要ですが、その中でも来場者の増加がみられることは、事業者の売り上げが伸び、より安定した経営を行うことができていることから、現時点においての進捗としては充分評価できます。						○		
	発揮効果	宮リバー度会パークの魅力伝えることで、町内外からも多くの来場者が訪れています。そのため、収益増となっている事業者の経営にも貢献していると考えられます。								
今後展開	来年度からは、宮リバー度会パーク魅力アップ事業を核としながらも、より具体的な地場産品を活用した商品の開発や大学・地域の高等学校と連携しながら、若手就農者や関係機関と合わせて事業を展開していきます。同時に展開するワーキンググループを充実させ、小さな産地づくりを進めていきます。特に次年度は、さらなる宮リバー度会パークの魅力発信のため、SUP (スタンドアップパドルボード) を活用したPRや、アウトドアを中心としたアクティブマップにより多くの集客を目指します。交流人口の増加に合わせ、物販施設の売り上げ向上と、近年注目をあびる「ふるさと納税返礼品」としての新たな商品開発を進めていきます。									
検証	外部検証	【事業全般に対する評価】 ・適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。 【事業の進め方等についての意見】 ・宮リバー度会パークの魅力アップを一次産業等の振興に繋げるよう取り組まれたい。								

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.4

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→ 戦略への成果	成果の状況					
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	茶園等再生利用支援事業		産業振興課	茶園や切花園を原野化しないよう抜根し、耕作地荒廃を防止するとともに、野菜等の畑作農産物を中心とした農地として再生利用する農家等を支援し、地域創業の基盤整備を図ります。						
	KPI	茶園及び切花母樹園抜根面積 ／300アール／H28.3		2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				50a	100a					
				事業認定済 157a (H28.2現在) 実施見込み 98a 抜根実施後に野菜等の畑作を奨励し、産地形成の推進を図ります。						
事業の効果	仕事を増やす	抜根後の農地を野菜等の畑作農産物のほ場として再生利用することで、農業従事者の確保を図ります。		→	社会減を減らす	茶園や切花園を原野化・荒廃を防止することで小規模ながらも、野菜や果樹への転換を図り、生きがいを持てる小さな産地づくりにつなげます。また、隣接する農地や宅地等への悪影響を防止することにつなげて、町が活気づき社会減を減らすことを目指します。				
	土地の保全を高める	農地を荒廃防止することで隣接する農地や宅地等への悪影響を防止するとともに、景観保全を図ります。								
総合評価	進捗状況	事業認定済 157a (H28.2現在) 実施見込み 98a 野菜作付実施 22.5a 抜根実施後に野菜等の畑作を奨励し、産地形成の推進を図っていますが、思うようにPRできていないため、目標達成に向け、更なる周知活動や積極的なPRを努めます。						△		
	発揮効果	茶園や切花園の原野化・荒廃を防止することで隣接する農地や宅地等への悪影響を防止するとともに、景観保全を図っています。								
今後展開	農地の荒廃を防止することで隣接する農地や宅地等への悪影響を防止するとともに、景観保全を図り、生き甲斐のある農業への取組みを促進することで生産者を増加させ、活気をつくります。また、生産者と消費者のつながりを大切にした住みやすいまちを形成していくことを、町の魅力へとつなげていくため、目標達成に向け、地域での周知活動や積極的なPRに努めていく。次年度からは、JAとも協力し小さな産地づくりを目指し、新規の就農者を増やす等、働く場を創出することで活気のある町づくりを形成する。									
検証	外部検証	【事業全般に対する評価】 ・適切な評価である。PR不足もあり目標は達成できなかったが、この評価を生かし、更なる進捗をはかられたい。 【事業の進め方等についての意見】 ・抜根面積は100アールにとどまったので、対象農家の事業への理解を深め、着実に取り組まれたい。								

1-7

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.5

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→	戦略への成果		成果の状況			
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	南伊勢高校度会校舎活性化事業		教育委員会事務局	平成26年5月に設置した「南伊勢高校度会校舎活性化協議会」では保護者、地域代表、学校及び行政が連携し、同校の魅力化、特色化に向け取り組んでいます。同年9月に策定した「南伊勢高校度会校舎活性化計画」は、4つのプロジェクト（進路支援、地域連携、通学支援、学校広報）を核に、平成29年度までの中期的視野で推進しています。						
KPI	入学者数 ／定員80人／H30.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				66人	未定					
	募集定員80人の内、前期選抜により27人内定（2月16日）。今後、後期選抜（3月10日検査、3月17日発表）、再募集（3月23日検査、3月25日発表）が行われます。									
事業の効果	郷土の誇りを高める		→	社会減を減らす		度会町の地域性を活かした郷土学習や体験活動等により、「郷土の誇りを高める」とともに、在校生への進路支援を行うことで将来の度会町の振興・発展に積極的に関わる人材育成を図り、延いては「次世代の育成」を目指し取り組んでいますが、本格的な取組開始から一年であり、具体的な効果が見込めるのは数年先かと思われる。				
	次世代を育成する									
	史跡巡りや茶摘み・林業体験等、町内の自然や歴史文化を活かした体験学習を通じ、度会町への愛郷心も少しずつ高まっているように感じます。また町内各種イベントでのボランティア活動を介し、地域の方と交流する機会も増え、生徒の自主性・協調性を高めるとともに、地域との相互理解にも少しずつ繋がっています。									
	在校生への進路支援により、県内大学等への進学増加や域内企業への就職増加につなげ、度会町の次代を担う人材育成と、優良な進路保障により今後の志願者増加の効果を見込んでいますが、具体的な効果に繋がるのは数年先かと思われます。									
総合評価	進捗状況	「南伊勢高校度会校舎活性化計画」に基づき、進学課外授業（国・数・英）や公務員対策講座の開講、自己学習支援のためのタブレット整備、また役場でのインターシップ受入等、生徒の進路希望の幅を拡充させるとともに、自らのキャリアを主体的、意欲的に考えられるような進路支援を本格的に始動させました。地域の中では、郷土学習・体験活動や、同校図書館を活用した児童らとの交流・読み聞かせ事業、中学校部活動との合同練習、町内各種イベントでのボランティア活動等、同校生徒が地域や地域の人と関わる機会が増えました。町外から通う生徒には、従来の教育活動に加え、こういった経験を重ねることで度会町に愛着を持ち、豊かな学校生活に繋がると考えます。一方で、地域の方が持つ度会校舎への印象も、こういった取組から少しずつ変容してくるものと思われます。								
	発揮効果	各取組は、学校や関係機関、地域の方の尽力により、計画的に進んでいますが、結果は一朝一夕に出るものではなく、本格的始動から一年、KPIの目標値である入学者80人には及ばない厳しい状況が見込まれます。毎年中学校卒業生数も減少していることから、域内生徒だけではなく、より広域な「地域の学校」として躍進していきけるような支援を継続する必要があります。								

4-⑦

今後展開

今年度末、同校生徒、保護者及び教職員を対象に検証アンケートを実施しています（2月実施、3月集計）。各種取組や支援内容の周知度・関心度のほか、生徒や保護者のニーズに合致しているか、また実際指導にあたる教職員の所感を把握・検証し、今後の取組に活かしていきたいと考えます。  
これまでは大人からの発信、提供に対し、生徒は受け身であり主体的な行動に繋がりにくかったことを踏まえ、今後は町観光事業への展開や読書振興・児童との交流に関しても、生徒主体による一歩前進した取組に繋がるよう創意工夫してまいります。また、近隣市町から通学する生徒も多いことから、度会町を含めたより広域な地域への郷土学習等も展開できるよう関係市町と連携を図ってまいりたいと考えます。  
県内において少子化が進み、県教育委員会では高等学校の再編等が検討されるなか、同校への志願者増加に向けた広報活動や、近隣市町からもより通学しやすいようにバス路線の拡充要望等も並行し行っています。

検証

外部  
検証

- 【事業全般に対する評価】
  - 適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。
- 【事業の進め方等についての意見】
  - 近隣市町や中学校との連携を図り、地域に密着した高校活性化を進められたい。

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(基礎交付分)事業No.6

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→ 戦略への成果			成果の状況			
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	世代間交流保育事業		福祉 保健課	今年度、世代間交流事業の専属保育士を配置し、各園の実情に合わせた内容にて世代間交流事業を実施しました。						
	交流事業実施回数 ／4回/園/H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				-	3.6回	/	/	/	/	
			3保育所の平均が3.6回でした。1保育所のみ保育所行事との関係で3回の実施となりました。次年度は年度の早期から計画し、交流事業の実施回数4回を維持し、内容や交流の対象者について検討していきます。							
KPI	保護者等へのアンケート調査 満足度向上率15%/H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				-	2.5%	/	/	/	/	
				ほとんどが満足度が高く、子供が「とても楽しそうだった」「楽しそうだった」という回答が占めましたが、その中でも、「とても楽しそうだった」だけを見ると3保育所の平均が57.8%となっています。2015年の現状は初回の交流会のアンケート結果の3保育所平均で56.4%であり向上率としては微増でしたが、毎回交流先の対象者が違うため、向上率を評価するためには継続し同対象者による検証が必要と考えます。今後は、今年度の平均満足度を基本とし、総合戦略の最終年度である2019年度において15%の満足度向上を目指し、取り組んでいきます。						
4-1-1 事業の効果	地域の絆を深める		中学生から、高齢者まで各保育所の実情に合わせた交流を行うことで、癒された、元気をもらった等の感想も聞かれ事業効果はあったと思われます。 今後継続していくことにより絆を深めていくことができるものと考えます。			人口減少に備える				
	安心して生活できる環境を整備する		高齢者の活力を活用した交流事業においては、高齢者の生きがいとなり、子供たちも交流することで顔の見える関係づくりができ、声かけや見守り等地域のつながりを強化し、安心して生活につなげていくことが出来ると思われま。交流を継続していくことにより、関係づくりを強化していきます。							
総合評価	進捗状況		専属の保育士を配置し、保育所の規模に応じて各保育所3~4回の交流事業を実施することが出来ました。また、各保育所の実施計画に基づいた遊具等を購入し、それらを活用することで各交流対象者に応じて楽しく趣向を凝らした交流ができました。しかし、事業の実施時期について、計画立案が遅れたため、保育所行事の関係で1保育所が3回の実施となってしまいましたので、次年度は年度の初めから実施計画を立案し、各保育所4回は実施できるよう計画的に取り組んでいきます。							

評価	<p>発揮効果          交流事業を単に行うのではなく、専属保育士が、目的を明確にした実施計画書を立てることにより、各クラスの保育士も事業の目的意識を持って交流事業に取り組むことが出来ました。また、アンケートを実施したことで事業評価を数値化、具体化することができ、次年に生かす基礎情報を得ることが出来、意識の醸成を図る効果測定がしづらい事業ですが、長期的な視野を持って取り組むことが出来るようになりました。</p>
今後展開	<p>世代間の交流事業を通して、地域の絆を深め、住民が支え合う安心安全な生活環境づくりをすすめるには、単年では事業効果は計れず、継続し実施することが必要と考えます。今年度の事業内容、交流先（対象者）等検証し、アンケートの感想等参考に、実施方法や対象者について検討し、次世代を担う子どもたちには、高齢者等と触れ合うことの経験から支え合う優しい気持ちをはぐくみ、また、高齢者については、役割を持った担い手として、子供の心の成長の一助となり、いきいきと活力ある時間を過ごすことで介護予防効果も期待できるため、今後も継続し工夫した世代間の交流事業を進めていきます。</p>
検証	<p>外部検証          【事業全般に対する評価】          ・適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。          【事業の進め方等についての意見】          ・地域の絆を深めるには重要な事業であるので、計画的に取り組まれたい。</p>

主な事業と重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

(上乘せ交付タイプⅡ)

項目	主な事業の名称		担当課	事業の取り組み状況						
	重要業績評価指標 (KPI) の指標名 ／指標値／目標年月			現状値	実績値					目標値
				2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
	重要業績評価指標 (KPI) の状況									
	事業の効果	効果の状況		→ 戦略への成果	成果の状況					
	総合評価									
	今後の事業の展開方針									
検証 (内部検証、外部検証) での意見										
事業	農業再生活力創造事業		産業振興課	「度会町農林業再生プラン (仮称)」の策定に向け、平成27年12月より、度会町内の若手農林業従事者を中心に「度会町農林業次世代デザインワーキング・グループ」を設置し、検討を進めています。						
	度会町農林業再生プランの策定/ H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
				策定中						
	誘客整備等の整備を行った宮リバー度会パークへの入込客数/1,000人増/ H28.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)	
調査中										
認定農家数/30戸/H32.3			2014 (平26)	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018 (平30)	2019 (平31)		
			19戸							
21①	事業の効果	仕事を増やす	地元産品の販路拡大や地元食材を使った食の提供等の具体的な取り組みを進めることで、農林業従事者の事業展開を見込んでおり、プランの実行により新たな産業展開が見込めます。			社会減を減らす			農林業の充実や新たな製品の開発などにより「仕事を増やす」とともに、取り組みにより生み出された製品の販売拡大などにより「人を呼び込む」ことによって、農林業従事者の事業の新たな展開を図り、延いては農林業従事者の継続的な経営を維持していくことで、町内での就業者を確保していくと同時に、地場産業の復興により生産年齢人口の増加が見込めます。	
		人を呼び込む	この取り組みにより生み出された産品を、町内の物販施設で販売したり、町の主要な観光スポットである宮リバー度会パークの遊具やイベント用機材を整備することで誘客・交流人口の増加が見込めます。							

総合評価	進捗状況	ネットショップセミナー、ワールドカフェ形式ワークショップによる農林業の現状及び課題等の洗い出し、今後方向性等の協議を実施しました。ワーキンググループ参加者（若手農林業従事者）の更なる意識向上並びに能力向上を目的に外部講師を招いての勉強会を4回開催し、年度内にプラン策定を予定しています。	○
	発揮効果	若手農林業従事者間の交流をもとに他業種の知識を得ることで、個々の知識の拡充並びに取組み意識の向上へのステップとなりました。また、漠然としている農林業の将来像を形にしていくために、より柔軟な発想で強固なつながりが芽生えたことから、大きな成果が発揮されるものと確信しています。	
今後展開	平成27年度に策定する「度会町農林業再生プラン（仮称）」を踏まえながら、農林業従事者、関係団体、行政などが一緒になって、農林業振興の具体的な取り組みを進めていきます。現在のワーキンググループ参加者にあわせ、活動への賛同者をつのり常に進化させていくことで、新たな展開を創造していきます。次年度からは、策定した度会町農林業再生プランにより、現状を把握し地場産品の開発や人材育成をさらに進めていきます。宮リバー度会パークにおいても魅力発信のため、SUP（スタンドアップパドルボード）を活用したPRや、アウトドアを中心としたアクティブマップにより多くの集客を目指します。また、産官民学が連携し農地の集約や担い手の確保、若手就農者の支援に積極的に取り組み、認定農業者の育成を進めていきます。		
検証	外部検証	【事業全般に対する評価】 <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な評価である。これを生かして着実に推進されたい。</li> </ul> 【事業の進め方等についての意見】 <ul style="list-style-type: none"> <li>今後を担う若手従業者を中心に、元気な農林業をつくっていく重要な事業なので、長期的な展望を持ちながら着実に進められたい。</li> </ul>	